

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403566		
法人名	MCP株式会社		
事業所名	グループホームつどい「柳内家」		
所在地	福島県いわき市鹿島町御代字柿境25-1		
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushimakenshakyō.or.jp/2000/2701.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に沿って全ての方々にとって「心地よい空間」であるべく努力をしアットホームである一人ひとりにあったライフスタイルを追求している 医療体制が確立し利用者様・御家族・職員共々、安心して過せる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者全員が自由にしていて、生き生きしている。利用者職員との「カベ」をとって接していて、心に寄り添ったケアを提供していることが伺える。 すべての利用者の方々にとって心地良い空間の「創世」(ホーム長の造語)を心がけている。 「職員が空気になる」(空気は存在していることが当たり前、しかしなくなると困る。)というような必要なときに必要なケアが行えるように介護の向上に努めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域のグループホームとして担えるように、利用者・家族・職員の意見を基に理念を構築している。	職員同士が理念を共有している。 また「つどい10の約束」を業務に入る前に確かめ合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	自治会の参加、地域のお祭り、近隣の幼稚園、小学校行事へ、利用者様と参加が定着し交流をもっている。子供避難所に登録し地域の一員としての役割を果たせるようにしている。	地のりのないところから出発したが、区長がホーム長の小学区の恩師ということもあり、地域の一員として子供の避難所という役割を果たせるようになってきた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを開放的にし、積極的に地域住民・実習生・ボランティアの受け入れ等をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	運営推進会議により、それぞれの立場から意見を出していただきサービスの向上に努められるようにしている。	2ヶ月に1回、区長・かしま病院の訪問看護・包括支援センター・民生委員・家族・利用者等・職員等10人位で行事等に合わせて行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員派遣を受け入れ、必要に応じ、市町村窓口を訪問し助言を頂くようにしている。	介護相談員派遣の実習施設になっている。 年に2回、3名位が実習にきている。 月に1回、市町村の窓口を訪問し、助言を頂くようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに沿って拘束のないケアに取り組んでいる。	出入口2ヶ所に施錠をしている。しかし、出ていこうとしている利用者にはただ止めるだけでなく、一緒に外出するよう心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を実施し、常々注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度や権利擁護について理解を深められるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分納得いくよう説明し、了承を得た上で契約を結んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱やアンケート調査により意見を取り入れられるよう努力し又、御家族来訪時に積極的に意見を交わし情報の共有をしている。	年に1度、11月後半に行っている。結果を家族に報告して、情報の共有に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	朝礼、フロアミーティング等でコミュニケーションを密に取れる様にしている。	年に1回、会社の課長と意見の交換をしている。会社側と職員間に「カベ」を作らないようにしている。そのためか、会議等では意見がよく出る。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内全事業所の管理者会議を定期的開催し社内環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内職員計画を基に、研修会を行っている。外部研修にも積極的に参加できるよう働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、情報交換をしている。他事業所との連携を深めネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知りえた情報をスタッフ間で共有し、利用者 と寄り添い馴染みの関係を築く事で一人ひとりの思いを汲み取れるよう心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の一員として関わりを持てるよう了承していただきアットホーム的なホーム作りを心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居問合せ時に情報の聞き取りを行うことで最良の選択肢を選ぶ支援を心がけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての方々にとって「心地よい空間」であるよう心がけている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホーム介護は家族と共にをモットーにより関係作りをこころがけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活暦を重視しこれまでの関係を継続できるよう働きかけている。	働きかけて2・3年経ち、8割の方に家族等の関係の継続できるようになった。特に時間帯は制限していない。 3名位は家族が泊まっていくようになった。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの生活の場であることを認識し共に支え合える環境作りを心がけて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要に応じて相談、助言ができるよう心掛けている。又ホームの行事等にも参加励行している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	利用者様に寄り添うことで常に生活のパートナーである事を認識することにより、真に望まれる生活を追求しながら情報を共有していく取組を心掛けている。	利用者職員間に「カベ」を作らないようにし、利用者寄り添い、思いや意向の把握に努め、情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのライフスタイルに合わせた生活が営まれるよう支援することにより経過を観察しそのニーズにあった生活ができるよう支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、バイタルチェック表を用いて情報を把握し、状況に応じたケアが営めるよう努力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・御家族の意向に沿った介護計画を作成している。	利用者本人の意向がストレートに伝わってくる。例えば したい、 が食べたい等。また、職員は仕事に対してやりがいを持つようになり、いい関係作りをし、意向等をキャッチしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を基にフロアーミーティング等を定期的に行い情報の共有をすることにより、ニーズの変化を捉え介護見直しの変更に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活全般を援助し御利用者・御家族様の負担軽減に取り組んでいる。(医療連携の充実・地域との交流)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を密にすることにより地域のホームであるべく働きかけをしている。地域行事の参加を励行している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療を利用し、ホームドクターとしての役割を担っていただき安心した医療の確保が出来ている。	在宅訪問診療と連携し、週に1回、健康チェックを行っている。また月に2回、ホームドクターに往診をしてもらっている。そのため、通院しなくてもよい体制を確保している。ホームドクターは病院の当番医が行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携を組み、ご利用者様の健康管理、急変時の対応が確立されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関である訪問看護ステーション、在宅訪問診療などが充実し入退院に関してもスムーズな対応が可能。又、定期的に医療に関する研修会も実施している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携が密に出来ている事でご本人・ご家族様の意向に沿った支援体制が整っている。	医療連携が整っており、利用者本人・家族の条件が整えば支援できる状態である。ぎりぎりまでホームで過ごせるように支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急の講習会を受講して救急時の対応に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し必要に応じ消防署のご指導を頂いている。	年に2回、消防署の指導のもと、防災訓練を実施している。一度、ご近所の方々と共に実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自社のプライバシーポリシーに基づき実践できるような働きかけをしている。	新人研修の時には特に一人ひとりに実施できるように働きかけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりの思いを叶えられる働きかけを常々確認し合い希望に沿った生活を営めるよう模索している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先することなく利用者様本意の生活を追求している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し身だしなみなどにも気を配れるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	常々心がけし、調理への参加を励行し食事は一緒にすることを心掛けている。又、外食・自由食を設け希望に沿った食事が提供できるようにしている。	月に2・3回、利用者の希望をとり、買い物も一緒に出掛けている。調理に参加してもらうように声掛けをし、味見をしてもらっている。外食は少人数で出掛け、回転寿司などが喜ばれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常々、把握しニーズ対応できるよう心掛けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量に応じて見守り介助し保清している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用により状況を把握し自立支援に向けたケアを心掛けている。	排泄のパターンを把握し、トイレで排泄してもらうことを心掛けている。 1日1回でもトイレで排泄してもらえればいいと考え、実践している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて医療機関の指示を仰ぎながら自然排便ができるようこころがけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にあわせた入浴が実施できている。	時間帯はできる限りご本人の希望に沿っている。夜、入浴を希望する方は、夕食後1時間位たってからにしている。家族が来て、毎日、入浴の介助をしてもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせた生活の実現を目視している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と薬局との連携を密にしている。服薬チェック表にて確認し誤薬がないように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の望みや好みを生かせるように生活全般で活躍できる場面を設けられるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域社会との交流を目標に定め外出を日常的に実施できるよう心掛けている。	地域との交流を心がけ、お祭・幼稚園のおゆうぎ会等に出掛けている。 また、花の苗を育て、幼稚園に植えてきた。 「1日1回は外に出よう」と目標を立て、実践している。主に畑仕事をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に合わせた金銭管理ができるよう働きかけている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	畳の生活に慣れている方が多いので尊重し、こたつを作っている。 床はクッションになる材料で作った。そのため、転倒しても頭部外傷の方はいない。 北側が暗いイメージになってしまうので、ライトを設置した。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室スペース、ソファを設置し自由に過して頂ける様配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	使い慣れたものや馴染みの物を持ち込んでいただけるようにご家族に提案し実現しつつある。	入居後、1ヶ月位はよく気をつけて行動観察を行い、環境整備をしている。 安心して過ごせるように、使い慣れたもの等を持ち込んでもらっているが、制限している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで各所に手すりを設置し、利用者様の安全を確保し自立した生活が営めるよう配慮している。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ぐるーぷほーむつどい「株

記入担当者名 坂本 修司

評価結果に対する事業所の意見

特にありません

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災時の避難(特に夜間)誘導體制を確立していきたい(近隣の協力体制の確立等)	防災時の地域(近隣)の協力を要請した避難訓練を実施したい	・運営推進会議により協力体制の要請し地域住民の協力を得た防災訓練の実施	3ヶ月
2	38	各利用者様一人ひとりの希望に沿った生活が営まれるように更に追求していきたい	当ホームの理念に沿った全ての方々に「心地よい空間」であるように追求していきたい	利用者様、御家族と話し合いの場を更に設け、グループホームの役割を模索していく	期間なし
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (該当するものすべてに 印)
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/> 利用者へサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/> 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/> 運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/> その他()
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/> 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/> 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/> 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/> 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/> その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/> 評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/> 対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/> その他(普段のありのままの様子を見ていただきました)
		<input type="checkbox"/> ()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/> 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> 市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/> 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> その他()
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> 職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/> 「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="checkbox"/> 「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="checkbox"/> 「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/> その他()